第四回滑稽俳句大賞応募句概観

八木　健

十句一組の作品群は、年々レベルが上がっている。いずれ、平成の滑稽句として「滑稽俳句大全集」に収録され、後世の読者を大いに楽しませることだろう。改めて作品を読み返し、記憶に新しいうちに印象を書いてみた。印象を書くことは、私自身が滑稽の手法を復習し、確認することにもなる。

誰よりも氷柱汗をかいてをり　金澤健

氷柱を擬人化した句である。この句の氷柱は、「つらら」ではなく「ひょうちゅう」で夏の季語。室温を下げることに懸命だから「汗」をかく。この部屋で一番の働き者は「氷柱」なんだという発見。

寝返りに裏切りの意味夜の秋　日根野聖子

文字から何かを発見するのも、滑稽句の方法の一つである。「裏切り」に「寝返り」の意味を見つけたことが手柄である。

パソコンもフリーズとなる寒夜かな　衣川洋子

これも言葉に可笑しさを発見した句。「も」ではなく「の」にした方が良かったかもしれぬ。

登山家の未踏リストに雲の峰　杉崎弘明

滑稽句の特徴は、作者も読者も「遊べる」ことである。「雲の峰」が実際の山でないことを承知でありながら、「なるほど」と笑わせることができる。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。

あれでまだなにを隠さむ海水着　小林英昭

「ギリギリのとこまで露出ビキニかな」ということだが、そこまで露骨に言わず「なにを隠さむ」としたから、滑稽句としての気品がでた。

初春の獅子に食はせる子の頭　原田曄

子の頭を獅子に食わせるという「恐ろしい」と、迎春の「めでたさ」の組み合わせ。滑稽句特有の「裏切り構成」という表現技術を使って巧み。

夜遊びの手の縛られて毛糸巻く　柳紅生

夜遊びに出掛けようとしたところを、母親か妻かに呼び止められた。差し出した両手に毛糸を巻かれる。お縄になっては外出できない。昭和の記憶。

馬肥やすわけにはゆかずレース前　麻生やよひ

「馬肥ゆ秋」の季語を上手く裏切った句である。「馬肥ゆ」の季語をなんとか滑稽句にと努力なさったのだろうが、句は簡単に出来たようにも見える。実は名句は簡単に出来たように見えるものなのだ。

敬老の日は年寄りになりすます　有吉堅二

高齢でも元気なご老人が多いから、案外こういう句は共感を呼ぶだろう。せめてこの日は、五欲も失せたとみせて演技せねばなるまい。

クリスマス一週間経ち神道に　安藤淑子

なるほど、同様に「除夜の鐘」は仏教で寺、「初詣」は神道で神社。三十分ほどで上手く使い分ける日本人の意識転換能力は素晴らしい。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。

初鏡見なかったことにして伏せる　石川節子

可笑しい句である。何処が可笑しいのか。まず「自身の顔」を題材に取り上げて、「見なければ良かった」と。自虐の可笑しさ。

成人の子にちやん付けの箸包　笠政人

いつまでも子離れの出来ない親か爺か。子の方もその気持ちを察して甘えるふり。成人しても爺からお年玉をたんまりというケースも。

秋刀魚焼く妻を燻製せしままに　久我正明

滑稽句の特徴として誇張がある。煙に燻されることを燻製にという誇張。これが可笑しさである。「秋刀魚焼く妻は自身を燻製に」としてもいいか。

初春の絵馬にありけり無理難題　寿命秀次

実力を棚に上げて東大合格、良縁などと書く。そう言われても…神様も頭を抱えるだろう。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。